

鋼製砂防構造物の設置

鋼製砂防構造物は、砂防施設として昭和40年代後半から計画され、施工されている。計画・施工に際しては、鋼製砂防構造物の材質や構造による特徴を踏まえ、その対象流域の性質と施設の相互関連を十分に考慮し、機能・効果がもっとも発揮されるように型式の選択、配置を検討する必要がある。

表2 鋼製砂防構造物の使用例

施設		目的	構造物の型式		
			透過型	不透過型	
砂防施設	砂防えん堤	山脚の固定、河道の縦侵食防止、河床堆積物の流出防止、流出土砂の抑制・調節	—		
		土石流対策	土石流の発生抑制	—	
			土石流の捕捉・調節		*1
			土石流の流向制御	—	*1
		流木対策	流木の発生制御	—	
			流木の捕捉		—
		火山対策	火山泥流等の発生抑制	—	*2
			火山泥流等の捕捉・調節	*2	*1 *2
			火山泥流等の流向制御	—	*1 *2
	床固工	縦侵食の防止、河床堆積物の再移動抑制、溪岸の決壊・崩壊防止、護岸等の基礎保護。	—		
	護岸工	側河岸の侵食防止、溪岸の決壊・崩壊防止。及び火山泥流等の流向制御。	—		
(土留工) 山腹工	植生導入のための表層土の固定	—			
地すべり防止施設(抑制工)	河川構造物	山脚固定・河道の縦横断侵食防止・河道への堆砂促進による地すべりの抑制	—		
	押え盛土工	地すべり末端部への盛土による地すべりの抑制	—		
急傾斜地崩壊対策施設	擁壁工	斜面の崩壊防止	—		

*1 枠構造は、土石流衝撃力等の衝撃が、直接構造物に加わらないように盛り土等による緩衝材を併用する。

*2 酸性河川への設置は原則的に避けるが、やむをえない場合は適切な腐食対策を施す。